

# 千葉県 NEWS

## CHIBA CANCER CENTER NEWS

# がんセンターニュース



第38号

平成30年2月22日発行  
発行/千葉県がんセンター

理念  
心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは一人でも多くの患者さんに  
質の高いがん治療を提供します。

## 医療の質と安全 ～千葉県がんセンターの取り組み～

千葉県がんセンター副病院長 <sup>はま</sup> <sup>の</sup> <sup>まさ</sup> <sup>あき</sup> 浜野 公明



千葉県がんセンターは、2017年8月、基本理念と基本方針を改定しました。基本理念は「私たちは、心と体にやさしく希望の持てるがん医療を提供します」と文体にし、患者さんや地域の皆様に向け、私たちの理念を宣言するかたちにしました。また、

基本方針は4つに整理し、内容も見直しました。その1番目は「安全で最適な医療を提供します」です。では、「安全で最適な医療」とは、どんな医療でしょうか。

「安全な医療」とは、検査や治療によって患者さんに傷害が起きない医療です。もし傷害が起これば医療事故になります。当センターもかつて大きな医療事故を経験しました。なぜ事故が起きたのか、どうしたら事故を防げたのか。私たちは、院外の専門家の協力を得て、事故原因を分析し、より安全な医療を行えるよう再発防止策を講じました。ミスが起きづらい手順、もしミスがあってもそれが連鎖しない手順、すなわち安全を確保できる手順を決め、それを実直に実践しています。その結果、大きな事故は起きていません。

一方、「最適な医療」とは、患者さん一人ひとりの

病状や体質に合った治療を行い、病気を治す、または良くする医療です。「医療の質」とも言われます。医療は万能ではないので、治療の副作用や合併症が一定の確率で起きます。患者さんは病気が治ることを期待し、一方ではリスクを負うことになるのが医療です。しかし、私たち医療者は、副作用や合併症は避けられないから仕方がないと言ってはいられません。その確率を1パーセントでも低くする努力を怠ってはいけません。それがプロフェッショナルというものです。私たちは、手術の合併症や薬の副作用についても丁寧に検証し、その発生率が少しでも低くなるよう医療の質向上を図っています。

私たちは、安全な医療と最適な医療の両方、すなわち「医療の質・安全」を推進しています。病院長の指示の下、医療の質・安全担当副病院長、医療の質・安全管理委員会、医療の質・安全管理部がその役割を担っています。この体制は大学病院など特定機能病院と同じ高水準のものになります。

千葉県がんセンター基本方針の3番目は「新しい医療の研究開発を行い、高度先進的な医療をめざします」です。高度先進的な医療はリスクが高い医療でもあります。私たちはそれに見合った高水準の医療安全を確保し、質の高い医療を提供して参ります。

# 臨床の現場から

## 当院における骨転移症例登録制度の試み

整形外科 主任医長 鴨田 博人

**現**

在は男性の2人に1人、女性の3人に1人が一生のうち「がん」に罹患するといわれています。実際がんと診断される方も増加傾向にあります。画像診断などの技術が飛躍的に向上していることもあり、がんの骨転移と診断される方も増加傾向にあります。

骨転移自体が患者さん自身の命に直接関わるといえることはあまりありませんが、骨転移に伴う疼痛・骨折や麻痺といった症状は、活動性の低下を招き、その後のがん治療の妨げとなることが多く、非常に大きな問題となってきました。

近年、がんの骨転移に関する研究が進歩し、新たな治療薬が開発され手術方法が確立されつつあることで、「骨転移のマネジメント」＝「骨転移を治療すること」の意義が非常に注目されています。実際に各大学病院等では、「骨転移キャンサーボード」といったシステムを活用することで、より円滑な骨転移治療が行われるようになりました。

当科としても骨転移を抱えた患者さんの治療方針に関して、積極的ににかかわることの重要性を痛感し、2017年1月より骨転移症例登録制度を開始いたしました。これは院内における各科の診療担当医が、骨転移

診療に関する相談をより簡便に行うことを目的としております。そして実際に寄せられた相談内容については、整形外科医師による情報共有および検討を行い治療方針等の提言を行うようにしています。

この制度導入により、症状が重症化する前に整形外科的な手術を施行し、あるいは手術そのものを回避することが可能となった患者さんも見受けられます。

また一度登録された患者さんをその後も定期的に経過観察することで、これまではあまり詳細に検討されていなかった骨転移病変の長期的な変化について注視するように心がけております。

骨転移の発生を完全に無くすということは困難かもしれませんが、院内におけるこの制度を今後も継続的に活用していくことで、各科における骨転移患者さんの治療成績向上につながるのではないかと期待しています。

2017年1月～ 転移部位別・症例登録数



## 患者教室のご案内

平成27年度より、緩和ケアセンターとがん相談支援センターが協働して患者教室を開催しています。現在の教育や医療の体制では、患者さん・ご家族は医療を受けるとはどういうことか、がん医療とはどんなものかを知り学ぶ機会がありません。そのため、「自分たちががん医療のどこに位置しているのか」「先に何が待っているか・何を考えるべきか」などを知ることができる場として開催しています。

患者さんご家族が受ける医療を決定する上で必要な知識を身につけ、ご自身たちが持つ力を向上させ発揮できるように。そのために必要な医療と支援を受け続けられるように、がん医療の流れに沿って患者教室は全4回で構成されています。

第1回『がんになったら知っておく』

第2回『病気や治療を知ること』

第3回『治療中も自分らしく』

第4回『がんと付き合いしていく』

お話しをするのは、がん相談支援センターの相談員・医師・看護師・栄養士・臨床心理士です。教室の内容は冊子やDVDでご覧になれるようになっております。

くわしくは、がん相談支援センターにお問い合わせください。千葉県がんセンターのホームページにも掲載しています。



# 地域医療連携室だより

地域医療連携室長 高山 亘

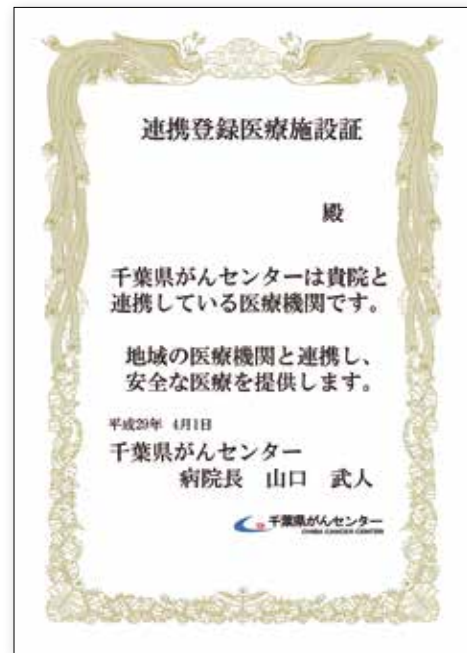
**平** 成29年度から地域医療連携室ではいくつかの新しい取り組みを行っております。その中から、いくつかご紹介いたします。

各地域医療連携研究会の登録連携施設に対し、千葉県がんセンター連携登録医療施設証を発行、各医療機関に郵送させて頂きました。これはクリニックの先生のご提案で、待合に連携登録医療施設証が掛かっていれば、患者さんに対し当院への連携のアピールになり、紹介等がスムーズに行えるとのアイデアです。高価なものではありませんが、額に入れて郵送させて頂きました。掲示して頂いてるクリニックの話を知ると、少しはお役に立っているのかと思います、大変うれしく感じます。

今年度から各診療科にA4 2枚の診療科ミニパンフレットを作成頂き、紹介患者さん一人につき一枚返書につけるように送らせて頂いております。診療内容、診療実績などコンパクトにまとめられており、始める時期が各科で少しずつずれましたが、時期を追う毎にだんだん洗練されてきました。この取り組みは来年度も継続する予定です。来年度はよりいっそうお洒落なミニパンフレットの運用を行っていきたくと考えております。診療の参考にして頂ければ幸いです。

4月から病院幹部の体制が変わり、顔の見える連携の強化のため、訪問に力を入れております。病院長を中心として多数の病院訪問、クリニック訪問を行い、また看護師が中心となり連携施設への訪問も行っております。訪問先の先生方には、お忙しい中、貴重な時間を頂き、また温かく向かい入れて頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も各医療機関と密に連携できるように努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

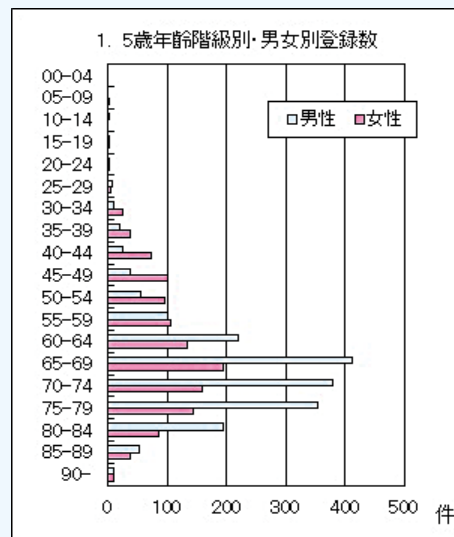
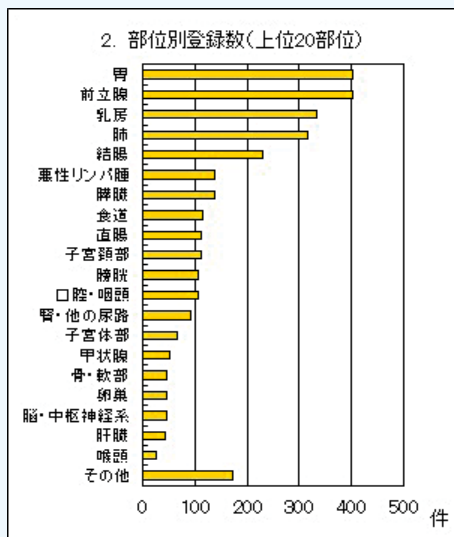


## 診療実績

院内がん登録 (千葉県がんセンター2016年症例) 診療情報管理室

**院**

内がん登録は、全国のがん診療連携拠点病院および推薦病院が、自院で診療した全てのがん患者さんの、診断・治療情報を登録するものです。集計結果は、国立がん研究センター・がん対策情報センターで、毎年公表されています。



# 初診担当医表

2018年2月1日現在

## 【予約受付時間】

月曜日～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

9時～17時

診療科	月	火	水	木	金
肝胆膵外科	千葉 聡	高山 亘	高山 巨 石毛 文隆	柳橋 浩男	千葉 聡 石毛 文隆
食道・胃腸外科	池田 篤亨 外岡 亨	鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 池田 篤	鍋谷 圭宏 滝口 伸浩	早田 浩明 星野 敢
消化器内科	傳田 忠道 鈴木 拓人 喜多絵美里 今関 洋	傳田 忠道 須藤研太郎 三梨 桂子	山口 武人 傳田 忠道 中村 和貴 三梨 桂子	傳田 忠道 鈴木 拓人 辻本 彰子 今関 洋	中村 和貴 須藤研太郎 三梨 桂子 北川 善康
呼吸器外科	岩田 剛和		飯笹 俊彦 岩田 剛和 松井由紀子		岩田 剛和 松井由紀子
呼吸器内科	芦沼 宏典 水野 里子	新行内雅斗 吉田 泰司 芦沼 宏典		新行内雅斗 吉田 泰司 水野 里子	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 味八木寿子	味八木寿子 坂本 敏哉 (担当医)	中村 力也 坂本 敏哉	(担当医)	中村 力也 味八木寿子 坂本 敏哉
形成外科				徳元 秀樹	徳元 秀樹
婦人科	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美 (腹腔鏡手術)	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美	大崎 達也
泌尿器科	小丸 淳 植村 俊彦	篠崎 哲男	大塚 真史 鎌迫 智彦 宋本 尚俊	小林 将行 竹下 暢重	深沢 賢 篠崎 哲男
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 伊勢美樹子	辻村 秀樹 菅原 武明	熊谷 匡也 菅原 武明	熊谷 匡也 伊勢美樹子	熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦	(担当医)	井内 俊彦	(担当医)	堺田 司
頭頸科	(担当医)	佐々木慶太 佐々原 剛 木下 崇		佐々木慶太 佐々原 剛 大熊 雄介	
整形外科	石井 猛 米本 司 塚西 敏則	石井 猛 鴨田 博人		石井 猛	米本 司 鴨田 博人 塚西 敏則
緩和医療科	秋月 晶子	秋月 晶子		秋月 晶子	秋月 晶子
精神腫瘍科	秋月 伸哉	秋月 伸哉		秋月 伸哉	秋月 伸哉
核医学診療部		小川 和行	久山 順平	久山 順平	小川 和行

## 【診療予約のご案内】

予約電話 043-264-5431 (代表番号) 地域医療連携室 予約担当

\*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。

\*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

# 看護の現場から

## 在宅支援部の看護師の役割

緩和ケアセンター 在宅支援部 がん看護専門看護師  
谷 宏子

**在**

在宅支援部には2名の専従看護師が在籍しています。当院に入院中、外来通院中のがん患者さんとご家族が住み慣れたご自宅などの療養場所で安心して生活できるよう、在宅療養や緩和医療に関する情報提供、在宅療養支援診療所・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所などの地域の在宅医療・介護サービス機関との連携業務をしています。

たとえば、通院困難となり在宅緩和医療を希望される場合には、がん患者さんの対応が可能な訪問医や訪問看護ステーションをご紹介します。また、ご病気や歳を重ねることによって日常生活に何らかのお手伝いが必要になった場合には、介護保険サービスのご案内やケアマネジャーなどをご紹介します。

私たち在宅支援部の看護師は、人と人との“つながり”を常に大切に考えています。お手伝いを開始するにあたっては、原則1時間程度の面談をしています。面談では、患者さんやご家族が、がんとともに生活する過程で生じる気持ちの揺れに寄り添いながら、正しい病状理解に基づいた療養上の意思決定ができるよう、

「今後の治療方針」、「病状理解」、「症状」、「住宅環境」、「家族背景」、「経済状態」、「療養生活で大切にしていること」などを伺います。また、「誰に介護してもらいたいか」、「どこで最期を迎えたいか」など、“あまり触れられたくない話題”についても、患者さんやご家族の気持ちを押し量りながら、その人らしい療養生活が送れるよう支援いたします。

ご紹介した後も、連携先と連絡を取り合い、当院と地域の在宅医療・介護サービス機関が協力して患者さんやご家族を支え合う体勢を整えています。また、事例検討会、勉強会、講演会を共に行い、千葉県の在宅医療の質の向上とシステムの構築を目指しています。

地域の在宅医療・介護サービス機関の方々の窓口として、今後も是非、在宅支援部をご活用ください。



## 第16回県民公開セミナー報告

今年で16回目を迎える県民公開セミナーを、平成29年10月21日（土）午後1時から京葉銀行文化プラザで開催しました。今回のテーマは「乳がん治療の最新事情」です。山口病院長によるあいさつの後、乳腺外科の山本先生が「悩んで決める乳がん手術－乳房温存か？乳房全摘＋乳房再建か？－」、同じく乳腺外科の味八木先生が「悩んで決める後悔しないがん化学療法」、遺伝子診断部の横井先生が「悩んで決める遺伝子検査－あなたは受ける？受けない？－」、看護師の石渡さんが「自分らしく生活するために－乳がん治療における、副作用対策－」と題し、講演しました。また、形成外科の徳元先生によるリンパ浮腫外来の紹介もありました。後半の総合討論では、座長の精神腫瘍科の秋月先生を中心に講演者が、参加者の皆様から寄せられた質問にお答えしました。

当日は悪天候の中、180名もの方に御参加いただきました。来場者の方々から寄せられたアンケートには「大変勉強になった」、「内容が濃く、よかった」とのお声をいただいた一方で、セミナーの運営・広報の面で率直な御意見もあり、今後の課題としていきたいです。



# 第7回 心と体総合支援センター シンポジウム開催のお知らせ

今回で7回目となるシンポジウム、今年は『がんの緩和医療ってなんですか？～いつ？どこで受けられるの？～』をテーマに掲げています。講演はがん緩和医療の診療に加えて、人材育成の指導的立場としてご活躍中の帝京大学医学部附属病院緩和ケア内科の有賀悦子先生にお引き受けいただきました。

このシンポジウムの特徴であるパネルディスカッションは、来場者にアナライザーシステム(アンケートを自動集計するもの)を使って参加していただきます。今回は精巣がん経験者であり朝日新聞記者である上野創さんをパネリストに加えて、当センターの医師と進行役のがん相談の担当者がそれぞれの立場で緩和医療に関する現状や疑問など、参加される皆さんと考えていきます。

**開催日時：平成30年3月17日(土)13～16時**

**場 所：京葉銀行文化プラザ6階「櫺」**



**「がんの緩和医療」ってなんですか？**  
—いつ？どこで受けられるの？—

平成30年 3月17日(土) 13時～16時(12時開場)  
京葉銀行文化プラザ 6階 櫺(けやき) **入場無料**  
申込不要：当日先着200名

**基調講演**  
『がんの緩和医療とは？』  
帝京大学医学部附属病院 緩和ケア内科 有賀 悦子氏

**ディスカッション** 講演に加え、がん経験者・がん治療、精神科医による本堂トーク。会場各席にはアンケートカードをご用意し、ご意見をお寄せしながら進めていく予定です。

**【座長】**  
がん相談支援センター 部長/緩和内科医師 堀本 尚

**【パネリスト】**  
「がんと向き合って」朝日新聞記者 上野 創さん (精巣がん経験者)  
千葉県がんセンター 緩和ケア内科医師 高山 聖  
精神科専門医 秋川 伸哉

**【司会】**  
がん相談支援センター 部長/緩和内科医師 堀本 尚

お問合せ先：千葉県がんセンターがん相談支援センター TEL：043-264-5431(代表)



**JR千葉駅から** 所要時間:約25分

千葉中央バス: 菅田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

**JR鎌取駅から** 所要時間:約13分

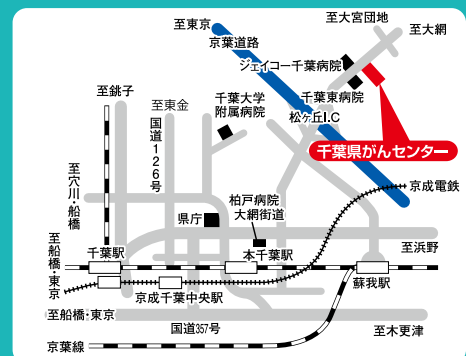
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**JR蘇我駅から** 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**松ヶ丘I.Cから**

大網街道を大網へ向かって約2km右側



**千葉県がんセンター**

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2  
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>